

愛知東邦大学 シラバス

開講年度(Year)	2024年度	開講期(Semester)	後期
授業科目名(Course name)	学習・言語心理学		
担当者(Instructors)	松尾 香弥子	配当年次(Dividend year)	2
単位数(Credits)	2	必修・選択(Required / selection)	選択必修

■授業の目的と概要(Course purpose/outline)			
<p>心理学では、経験によって生じる比較的永続的な行動や知識、態度、考え方などの変化を「学習」と呼んでいる。人は日常生活の中で絶えず学習をしており、学習の機序を知ることは人間理解のうえで重要である。本講義では、人の行動が変化する過程、言語の習得における機序について理解を深め、自らの効果的な学習への応用や、学習を支援するうえで学習指導に応用できること、また言語習得のための支援に応用できることを目的とする。</p>			

■授業形態・授業の方法(Class form)	
授業形態(Class form)	講義
授業の方法(Class method)	基本的に対面の講義形式で行うが、場合によりオンデマンド形式にすることがありうる。1回の授業中に数回程度、無記名アンケートを行って結果を即時に提示したり、teamsで課題に回答を求めたりするといった、インタラクティブな授業を行うため、可能な限り、インターネットにアクセスできるスマートフォン等を持参されたい。

■各回のテーマとその内容(Each theme and its contents)			
回数(Num)	テーマ(Theme)	内容(Contents)	メディア区分(Media)
第1回	この講義の目標	授業の方針と全体の流れを理解する。「学習」の定義について理解し、日常生活での学習、失敗から学習することの意義について考える。	□
第2回	古典的条件づけ	連合理論から、パブロフの古典的条件づけについて知り、日常生活での例を考える。	□
第3回	オペラント条件づけとプログラム学習	連合理論から、スキナーのオペラント条件づけとプログラム学習について知り、日常生活での例を考える。	□
第4回	洞察学習	連合理論のソーナダイクの試行錯誤説について理解する。認知理論のケーラーの洞察説について理解する。	□
第5回	発見学習	認知理論から、トールマンのサイン・ゲシュタルト説、レヴィンの場の理論を知る。また認知理論の学習指導法であるブルーナーの発見学習を理解する。	□
第6回	社会的学習理論	伝統的な学習理論とは異なるバンデューラの社会的学習理論を知り、観察学習を理解する。	□
第7回	学習の動機づけ	外発的動機づけと内発的動機づけの違いを知り、長期的な動機づけや効果的な学習について理解を深める。	□
第8回	記憶のメカニズムと効果的な記憶法	記憶のメカニズムを知ることによって、より効率のよい学習や記憶法について理解を深める。	□
第9回	創造性、ブレインストーミングとKJ法	創造性とは何か、また集団での創造性開発技法であるブレインストーミングやKJ法について理解を深める。	□
第10回	言葉の発生の基盤	言葉の発生の基盤について学び、言葉を獲得するための支援を考える。	□
第11回	話し言葉の発達	話し言葉の発達の視点から言語習得の機序について理解を深める。	□
第12回	書き言葉の獲得	書き言葉の獲得について理解する。	□
第13回	第二言語・外国語の習得	第二言語・外国語の習得について考える。	□
第14回	学習と言語の障害	学習と言語の障害について理解を深め、教育現場での適切な支援を考える。	□
第15回	この講義のまとめ	本講義のまとめを行う。	□

■授業時間外学習(予習・復習)の内容(Preparation/review details)			

授業中に随時、関連する文献・ウェブサイトや動画等を紹介するので、それらを参照し、授業内容について理解を深める（4時間）。

■課題とフィードバックの方法(Assignments/feedback)

課題は翌週以降にまとめてフィードバックし、内容について、解説とともに解答例を提示する。

■授業の到達目標と評価基準(Course goals)

区分(Division)	DP区分(DP division)	内容(DP contents)
知識・技能	◇ 2019人間健康DP1	学習・言語心理学についての基礎的な専門知識や実践の基礎を身につける。
思考力・判断力・表現力	◆ 2019人間健康DP2	学習・言語心理学における問題意識をもち解決方法を探求できる。

■成績評価(Evaluation method)

筆記試験(Written exam)	実技試験(Practical exam)	レポート試験(Report exam)	授業内試験 (in-class exam)	その他(Other)
		30%	40%	30%

授業内試験等(具体的内容)(Specific contents)

成績は、授業中のワークや提出物、授業内試験、レポート試験によって総合的に判断する。

■テキスト(Textbooks)

No. (No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1	なし	
2		
3		
4		
5		

■参考図書(references books)

No. (No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1	郷式 徹・西垣順子（編著） 「学習・言語心理学」 ミネルヴァ書房	
2		
3		
4		
5		